



モンゴル国講座



サイン・バイノー！ こんにちは

5回目は、モンゴル国の伝統的な民族楽器「馬頭琴」と伝統歌唱法「ホーミー」についてご紹介します。

馬頭琴とホーミー



●馬頭琴（モリン・ホール）

馬頭琴は、モンゴルの遊牧民の間に古くから伝わる、二弦からなる擦弦楽器です。柄の先には、馬の頭が彫刻してあり、元々は馬の尻尾や皮を使い作られていました。共鳴箱が今でこそ木製が主流ですが、ほんの30数年前まで馬・牛・蛇などの皮を使ったものも多くありました。今でもモンゴル人は馬頭琴が大好きです。馬頭琴はとても縁起のよい楽器と考えられています。モンゴルでは「幸運」のことを「ヒーモリ」（風の馬）と呼びます。馬頭琴を弾くと、その家にさいわいが訪れると考えられており、宴会やお祝い事で弾いたり、暮らしの中での出番も多いのです。独特の乾いた音色、郷愁を感じ

させる音色で、日本でもファンが増えつつあります。

●ホーミー（喉歌・歌唱法）

ホーミーとはモンゴルに伝わる歌唱法で、遊牧民が家畜を呼ぶために使っていた発声が元祖と言われています。一人の歌い手が高音と低音を同時に歌う（奏でる）というモンゴルにしかない独特な歌唱法で、まさに人間楽器だといわれています。遊牧民族の多いモンゴルでは、牛や山羊、ラクダなどの家畜を飼っています。その家畜を集めるためにホーミーを使ったり、母畜が仔畜に授乳をする際に嫌がるがありますが、ホーミーを聞かすと自然と授乳をしてくれるようになそうです。



草原で馬頭琴を奏でる奏者

ホーミーを歌う様子



簡単モンゴル語5！

上手です/よくできました（サイン バイナ）

焼津市はモンゴル国のオリンピックレスリング競技・パラリンピック陸上競技のホストタウンです。日本選手と同様にモンゴル国の選手も応援しましょう。